

# 議会運営委員会行政視察報告書

末吉 利啓

## ○静岡県藤枝市

決算審査特別委員会での事業評価と各常任委員会での予算への提言について

### 【所見】

静岡県藤枝市議会で議会改革特別委員会の皆様から、予算・決算に係る提言と事業評価などについて説明をいただいた。まず圧巻なのは決算審査を重視し、1001事業に目を通し、その中から最終的に14事業を抽出して、徹底的に評価をしていることだ。更には各委員の評価を取りまとめ、事業評価書とともに提言も提出している。また、各常任委員会からは政策的な提言書も提出されている。そして、予算委員会で提言が反映されているのかを厳しく確認している。様々な議会改革を学んできたが、ここまで「機能強化」に力を入れた議会は多くないと思われる。

さて、これを実現するために必要不可欠だったのが平成22年に当局がはじめた「藤枝型新公共経営」である。そのなかでも「全事業総点検シート」の導入により、各事業はブラッシュアップされ効果を上げてきた。いわゆる「事業仕分け」ではなく、全職員の当事者意識を持った総点検であるため、職員のレベルアップにも繋がっている。このシートを活かして、決算審査や提言書に繋げているのだ。

一般的にこういった事業評価は行政職員の負担が増えるため、導入は容易ではない。本市も過去に「事業仕分け」が行われたことがあるが、ここまで徹底した総点検は行われていない。本市で導入するにはかなりのハードルがあると思うが、範囲を限定して試行的に導入することは可能かもしれない。例えば総合計画の「重点プログラム」は当局、議会ともに注視しているものなので、点検を強める価値はある。また、様々な意見が集まる議会において、特定の事業の評価をまとめることも容易ではない。これも「反復により合意形成能力が向上する」といった、委員のお話が印象的だった。

## ○愛知県一宮市

議場の大型スクリーンの活用について

## 【所 見】

愛知県一宮市議会では議会事務局の皆様から、大型スクリーンの活用について説明をいただいた。同議会では議員や傍聴者に向け、投影機で一般質問の資料や議員の正面からの姿を映し出している。スクリーンのサイズは私の知るところ、最も大きいように見えた。先方の説明にもあったが、テレビなどのモニターに比べて投影している分、解像度は落ちる印象を受けた。細かいグラフの数字などは見えにくいかもしれない。当局に向けては質問席前にモニターを設置している。大型スクリーン設置の詳しい経緯は不明とのことだったが、平成 26 年庁舎建て替えが契機になったようだ。庁舎全体で整備費用が積算されたため、モニターシステム単体の費用も不明とのこと。ただ、投影機は 500 万円程度かかったようだ。設置から 10 年以上経過しているため、改善を検討しているとの事で参考になる話を聞くことができた。

運営については通告書に「PC 使用」のチェック項目があり、任意で事前に試写も行っている。投影に使うのは議員の PC やタブレットで、質問の間に準備のため休憩が入る。利用率は実に 6 割にのぼり、その効果に対する理解が進んでいることがわかる。

足利市では ICT 推進委員会（現 DX 推進委員会）で令和 3 年 8 月にモニターに関する検討報告を議長に提出。まずは予算のかからない形で試行することとなった。当局の 65 インチモニターを借り、議員の正面からの姿を映し出している。今後は自前のモニターを整備する方針だが、現在まで予算が計上されていない。引き続き要望するとともに、以下の点（あくまで私案）について検討していく必要があると考える。

- (1) 資料を投影するための規則等の整備
- (2) モニターのサイズ、数、設置場所
- (3) モニター以外の資料共有方法

世界一有名なプレゼンテーションソフトウェア「PowerPoint」がアメリカで生まれたのは 1987 年。民間企業では当たり前のプレゼンツールが使えない旧態依然とした議会を変え、より深く、価値のある議論ができるよう、引き続き調査、協議をしていきたい。